

デジタルとリアル融合のアート作品展 「ARTLINK 2024」

—メタバースが切り開く未来と印刷の新たな可能性

東洋美術印刷(株)

東洋美術印刷株式会社（山本久喜社長、本社・東京都千代田区）は、アート作品展「ARTLINK 2024」に協力し、印刷の新たな価値創出に取り組んだ。このイベントは、仮想空間によるメタバース展示会「WESON MUSEUM」に、初めてリアル展示会を併催する形で行った新たなアートコミュニケーション企画で、未来志向の試みとして注目を集めた。

▶ メタバースで広がるアートの可能性

「ARTLINK 2024」は、メタバース展示会が11月4日から22日まで、リアル展示会が11月18日から22日まで東洋美術印刷本社1階のアートギャラリーii-Crossingで開かれた。同イベントの主催者で画家の植村友哉氏を含めた14名のアーティストが、油彩画やアクリル画作品などを出品した。

メタバース展示会では、来場者はVRゴーグルを装着し、自身の「アバター」が3D展示空間に入り、空間を自由に移動しながらアート作品の鑑賞を楽しんだ。時間や場所に縛られないメタバースの特性により、これまでアートに馴染みのない人や美術館に行ったことがない人にも、アートに接する機会が広がった。期間中、約1,500人が来場した。

今回のメタバース展示会の設営・運営を担当した株式会社シュタインズ代表の齊藤大将氏は、金融系の教育事業を展開する傍ら、VRエンジニアでもあり、新たな文化活動・アート作家の支援活動に情熱を注いでいる。

メタバース展示会を始めたきっかけは、コロナ禍でリアルな展示会の開催が難しくなり、多くの画家が作品を発表する場を失ったことがある。画家の植村氏から相談を受けたことが取組みの出発点となった。齊藤氏によると、毎週VR展示イベントを開いており、これまでに延べ1万5,000人以上が来場しているという。そこでは画家による作品の解説を受けながら、気軽にアートに触れられる場となっている。

メタバース展示会は、早朝や深夜など来場者に都合のいい時間に好きなだけ鑑賞できるという利便性が大きな魅力となっている。アーティストにとっても、会場費や作品の運搬コストなどの課題を解消し、気軽に作品を発表できる場として機能している。こうした新たな取組みによって、新たなアートのファンとコミュニティ形成につながっている。

▶ 「美巧彩」の技術を活かし、デジタル印刷で複製画、ポストカードなど販売

今回、東洋美術印刷が協力し、初めてリアル展示会を併催した。リアル展示会の最大の魅力は、やはり原画の持つ迫力や質感に触れられることだ。さらに、会場では、原画の展示・販売に加えて、東洋美術印刷が導入した富士フィルムビジネスイノベーション製プロダクションプリンター「Revoria Press™ PC1120」を活用し、複製画や同展アートブック、ポストカードセットなどを展示し、特設オンラインショップで販売も行われた。

複製画やポストカードなどは、東洋美術印刷が、図録、美術書、写真集などの制作でこれまで培ってきた高精細・広演色による美術印刷ソリューション「美巧彩」を活かし、原画に迫るクオリティを実現し、画家とファンの双方から高い評価を受けた。

東洋美術印刷マーケティング部プロデューサーの宇佐美和彦氏は「Revoria Press™ PC1120は、トナー粒子が非常に細かく、高品質な仕上がりで、デジタル印刷の特性である、多品種小ロットの美術印刷に適している」と話す。また、今回のコラボレーションを支援した富士フィルムビジネスイノベーションジャパングラフィックコミュニケーション営業統括部同販売推進部マーケティンググループマネージャーの杉田晴紀氏は「東洋美術印刷さんによる美術印刷の卓越した技術と、ギャラリー機能を兼ね備えた強みが活かされた」と話す。

メタバース展示会では、これまで物販は基本的には行っていなかった。今回の試みは多品種小ロット、高品質を実現したデジタル印刷技術の活用が、アーティストの新たな収益モデルとして、アート文化を支える重要なツールになる可能性を示した。

デジタル化の中での印刷の新たな役割

「ARTLINK」は、アートを通じた国際的なプラットフォームになりつつある。

シュタインズの齊藤氏によると、画家の植村氏はオセアニアのパラオ共和国に縁があり、同国をテーマにした作品を数多く手がけている。また、パラオだけでなく、アメリカのイリノイ大学とも交流があり、前回



左から東洋美術印刷の宇佐美氏、富士フィルムビジネスイノベーションジャパンの杉田氏、シュタインズの齊藤氏

の「ARTLINK 2023」では学生たちがイベントに参加し、新たな国際交流も生まれている。

今後の展望について、齊藤氏は「外国のアーティストも巻き込んだグローバルな展示会を目指し、仮想空間であるメタバースならではの可能性をさらに広げていきたい。美術館自体への来館者も減っている中、メタバース展示会をきっかけに、アートの魅力に身近に触れることで、アート全体に対する敷居を下げていきたい」と意欲を示す。

仮想空間を利用したメタバースは、いまやゲームやエンターテインメントにとどまらず、ビジネス、教育、医療・介護、シティープロモーションなど幅広い分野で利用が広がり始めている。

今回のデジタルとリアルを融合させた「ARTLINK 2024」は、アート業界と印刷業界が連携する新たな可能性を示した。リアル展示会との融合イベントは、メタバースでの利便性と、バーチャルでは足りない「リアル=印刷物」での機能を補完し合い、印刷に新しい役割をもたらす可能性を感じさせる。「ARTLINK 2024」はその一歩を示す事例と言えるだろう。



東洋美術印刷アートギャラリー ii-Crossing で開いた「ARTLINK 2024」。原画をはじめ、デジタル印刷で制作した複製画、ポストカードの展示・販売が行われた

